

# 2019年度 第2四半期 決算説明会

2019年11月13日

100年をつくる会社  
 鹿島

▶2019年度第2四半期の決算概要をご説明いたします。

**I** 2019年度 上期 決算実績 ——— 01

**II** 2019年度 通期 業績予想 ——— 13



# 2019年度 上期 決算実績

1. 事業環境等の振り返り
2. 業績ハイライト
3. 事業別の概況

# 1.事業環境等の振り返り

## 国内建設市場の動向

- 公共工事の発注は増加傾向、民間設備投資は非製造業を中心に底堅さを維持
- 労務・資機材の需給は総じて安定的に推移

## 当社の施策推進状況

- 生産性向上・省人化に向けた技術開発・実証・現場適用
- 国内外の開発プロジェクトの積極的な取り組み

- 上期の事業環境を振り返ります。
- 国内建設市場につきましては、公共工事の発注は増加傾向にあり、民間設備投資は非製造業を中心に底堅さを維持しました。また、労務・資機材の需給動向に深刻な逼迫は見られず、総じて安定的に推移しました。
- こうした環境の中、当社グループは中期経営計画に基づき生産性向上・省人化に向けた技術開発や実証実験、現場適用を進めるとともに国内外の開発プロジェクトに積極的に取り組んでまいりました。

## 2.業績ハイライト

### 前年同期比 増収減益、通期予想に対して概ね順調な進捗

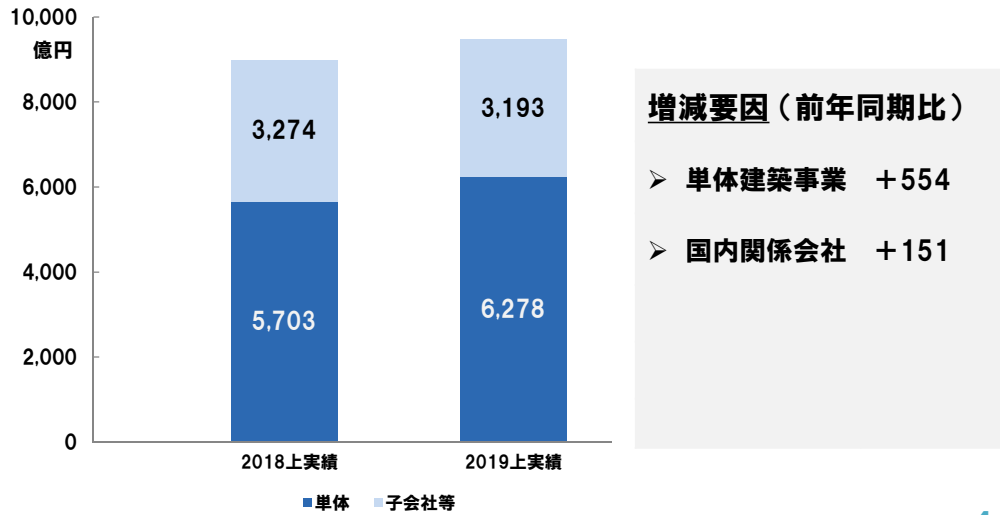
単位: 億円	2018上 実績	2019上 実績	前年 同期比	進捗率	期首 通期予想
売上高	8,977	9,471	+494	46.4%	20,400
営業利益	606	597	△8	50.4%	1,185
経常利益	721	650	△70	51.2%	1,270
※1 四半期純利益	545	498	△47	55.3%	900
建設事業受注高	7,520	8,013	+492	45.5%	17,600
有利子負債残高	※2 2,987	3,015	※3 +28	—	3,300

※1 親会社株主に帰属する四半期純利益 ※2 2018年度末実績 ※3 前年度末比

- 連結業績のハイライトです。
- 今年度上期は、売上高は前年同期より増加いたしました。  
総利益は増加したものの、販管費の増加と営業外損益の悪化を主因に  
四半期純利益は前年同期より減少いたしました。
- 期首に発表した通期予想に対する進捗は、  
各段階利益が50%を超え、概ね順調に推移しております。
- 建設事業受注高は、単体建築事業を中心に国内が増加し、前年同期を上回りました。  
有利子負債残高は前年度末と同水準です。

## 2.売上高

単位:億円	2018上 実績	2019上 実績	前年同期比
売上高	8,977	9,471	+494

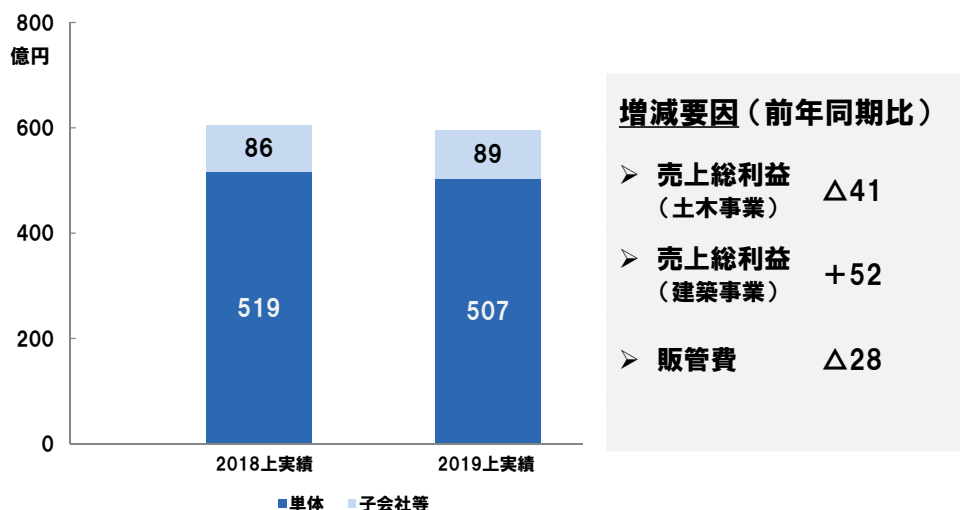


- 業績の詳細をご説明いたします。
- 売上高は、前年同期比+494億円増加の9,471億円となりました。
- 単体の建築事業と国内関係会社の増加が主な要因です。

## 2.営業利益

I 2019年度 上期 決算実績

単位:億円	2018上実績	2019上実績	前年同期比
営業利益	606	597	△8



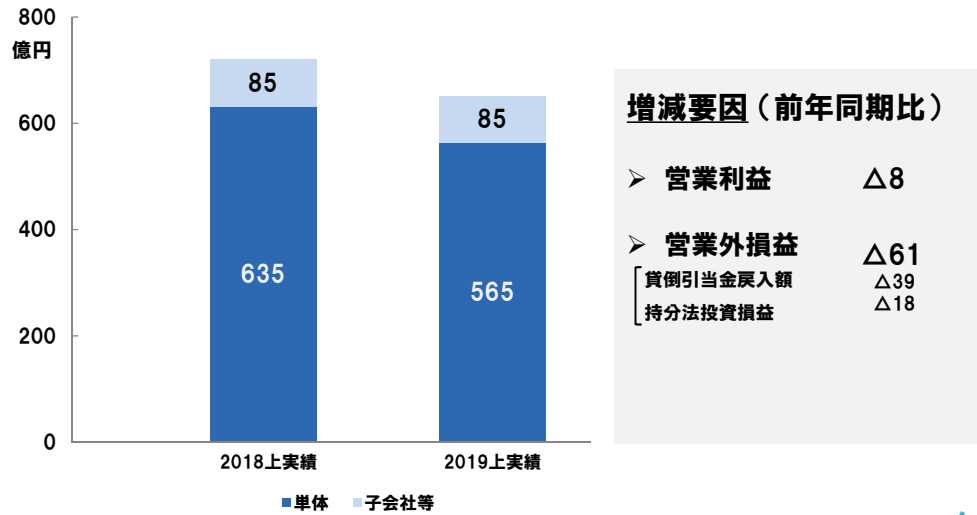
Copyright © 2019 KAJIMA CORPORATION All Rights Reserved.

5

- 営業利益は、前年同期比△8億円減少の597億円となりました。
- 単体土木事業の利益率の低下、及び、販管費の増加が主な要因です。

## 2. 経常利益

単位: 億円	2018上 実績	2019上 実績	前年同期比
経常利益	721	650	△70

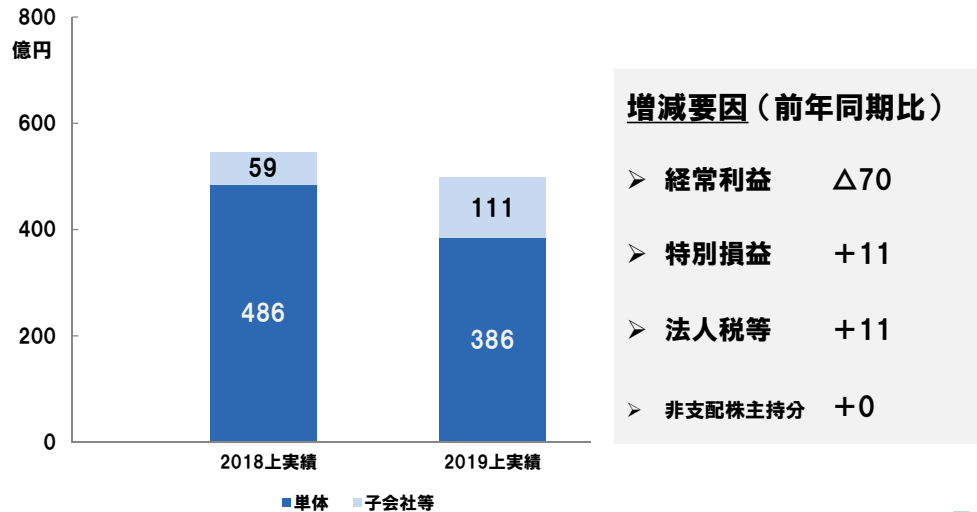


- 経常利益は、前年同期比△70億円減少の650億円となりました。
- 営業外損益の悪化は、貸倒引当金戻入額の減少や持分法投資損益の悪化などが要因です。



## 2.親会社株主に帰属する四半期純利益

単位:億円	2018上 実績	2019上 実績	前年同期比
四半期純利益	545	498	△47



- 以上の結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期比△47億円減少の498億円となりました。

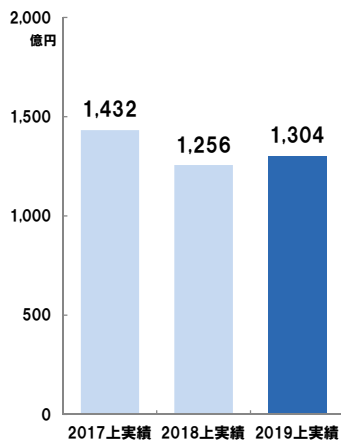
### 3.事業別の概況 ①土木事業(単体)

受注高 ▶ 前年同期と同水準

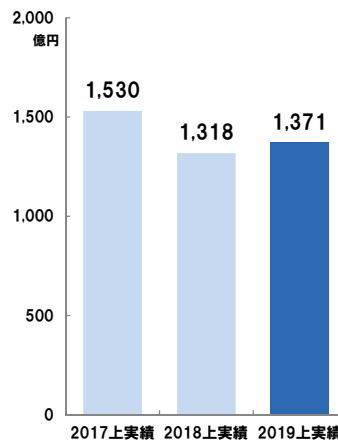
完成工事高 ▶ 前年同期と同水準

総利益 ▶ 損益を改善した工事が少なく利益率が低下

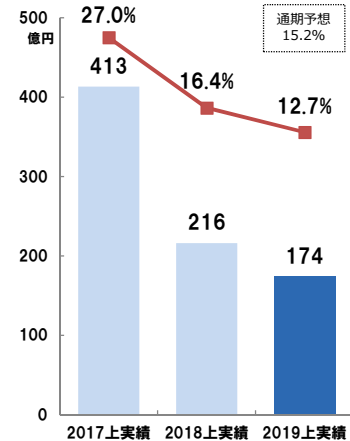
■受注高



■完成工事高



■完成工事総利益



Copyright © 2019 KAJIMA CORPORATION All Rights Reserved.

- ▶ 続いて、事業別の業績をご説明いたします。最初に、単体の土木事業です。
- ▶ 受注高は前年同期と同水準の1,304億円となりました。
- ▶ 完成工事高は前年同期と同水準の1,371億円となりました。
- ▶ 完成工事総利益は174億円であり、前年同期比△41億円減少となりました。第1四半期の損益改善工事が少なく利益率が低下したことが主な要因です。

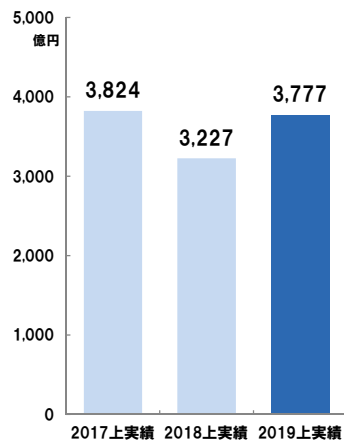
### 3.事業別の概況 ②建築事業(単体)

受注高 ▶ 大型工事の受注が増加

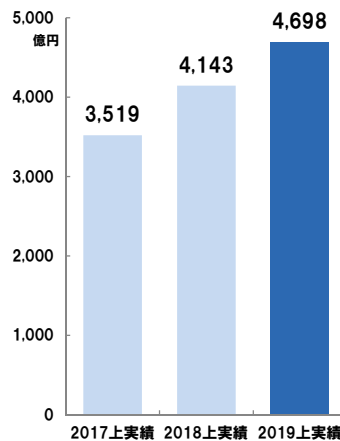
完成工事高 ▶ 大型手持工事が順調に進捗

総利益 ▶ 増収による増益

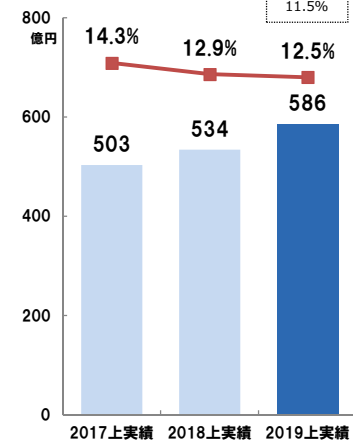
■受注高



■完成工事高



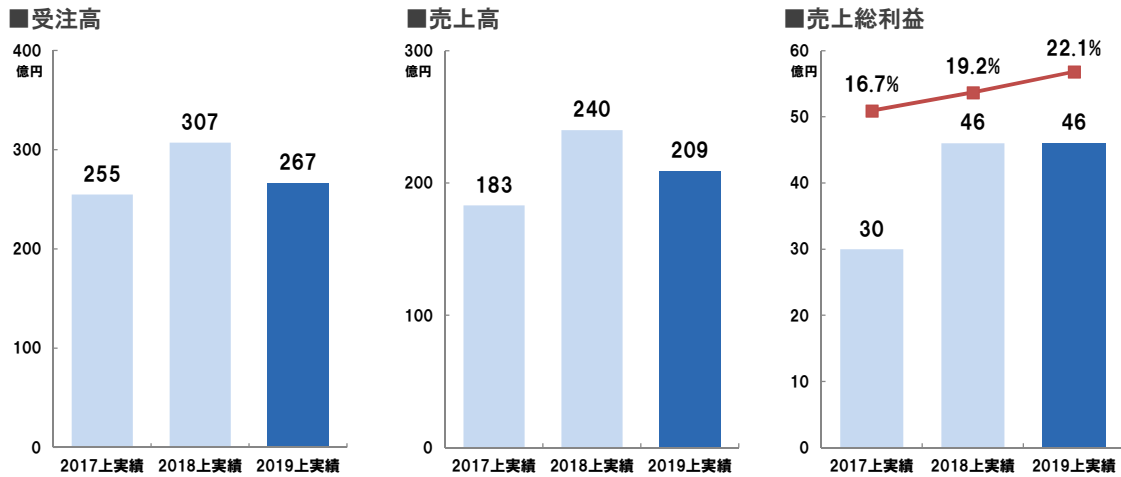
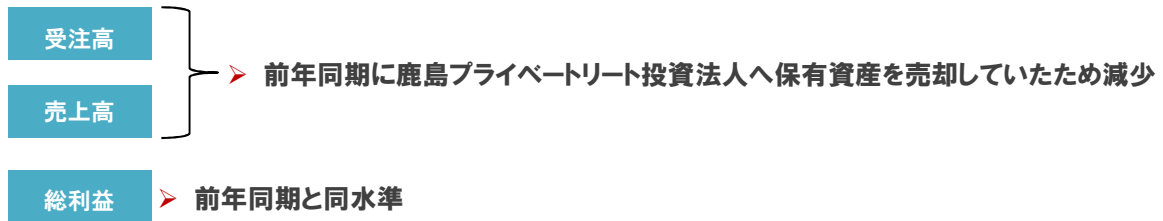
■完成工事総利益



Copyright © 2019 KAJIMA CORPORATION All Rights Reserved.

- ▶単体の建築事業です。
- ▶受注高は3,777億円です。  
大型工事の受注が増加し、前年同期比+549億円増加しました。
- ▶完成工事高は4,698億円、  
東京オリンピック開催前に竣工する大型工事を中心に  
手持ち工事が順調に進捗し  
前年同期比+554億円増加しました。
- ▶完成工事総利益は586億円であり、  
売上高の増加により前年同期比+52億円増加いたしました。  
利益率は、生産性向上や施工合理化による原価低減、  
および、一部工事における追加変更契約の獲得により、  
期首予想を上回る12.5%となりました。

### 3.事業別の概況 ③開発事業等(単体)



Copyright © 2019 KAJIMA CORPORATION All Rights Reserved.

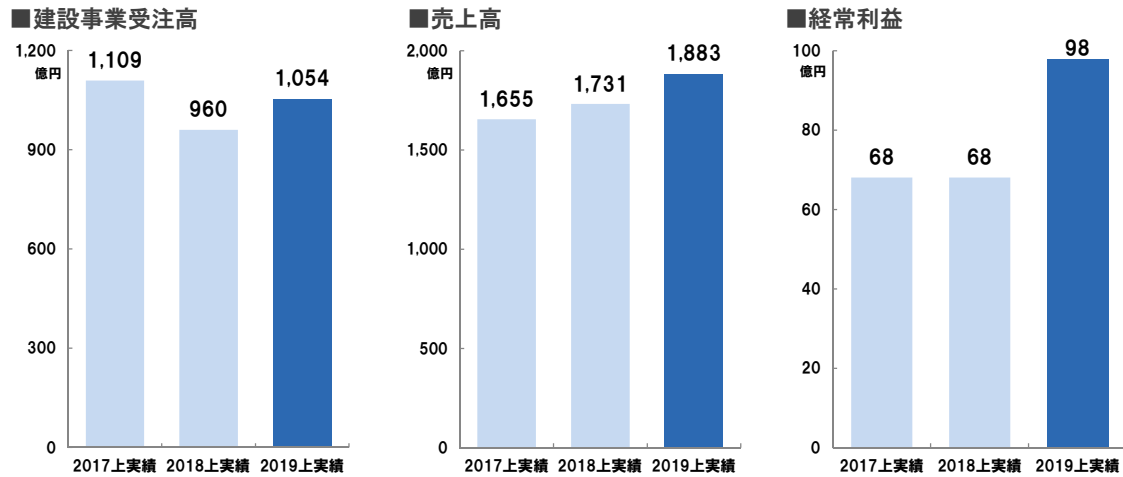
- 単体の開発事業等です。
- 受注高は267億円、売上高は209億円となりました。  
前年同期に鹿島プライベートリート法人に保有資産を売却したことを主因に前年同期より減少いたしました。
- 売上総利益は46億円です。  
不動産販売収入は減少しましたが、賃貸事業が改善し前年同期と同水準を確保いたしました。

### 3.事業別の概況 ④国内関係会社

**受注高** ▶ 内装工事、設備工事が増加

**売上高** ▶ 舗装工事、設備工事を中心に建設事業が増加

**経常利益** ▶ 増収に加え、建設事業・開発事業等ともに利益率が改善



Copyright © 2019 KAJIMA CORPORATION All Rights Reserved.

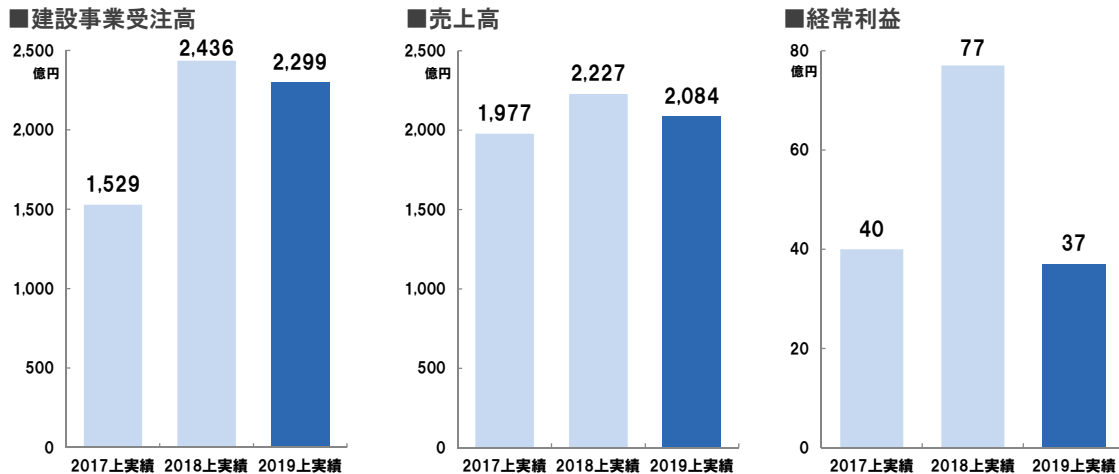
- ▶ 国内関係会社です。
- ▶ 建設事業受注高は1,054億円となりました。  
内装工事や設備工事の受注が増加いたしました。
- ▶ 売上高は1,883億円です。  
舗装工事や設備工事を中心に建設事業が増加いたしました。
- ▶ 経常利益は売上高の増加に加え、  
建設事業・開発事業等ともに総利益率が改善し  
前年同期比+30億円増加しました。

### 3.事業別の概況 ⑤海外関係会社

**受注高** ▶ 前年度に大型工事を受注した地域が減少

**売上高** ▶ 営業中案件の計画遅延等により減少

**経常利益** ▶ 売上高減少に加え、建設事業の利益率が低下



Copyright © 2019 KAJIMA CORPORATION All Rights Reserved.

▶ 海外関係会社です。

▶ 建設事業受注高は2,299億円であり、前年同期に大型工事を受注した大洋州や台湾が減少し前年同期比△137億円減少しました。

▶ 売上高は2,084億円です。計画遅延による着工の遅れ等により△142億円減少しました。

▶ 経常利益は37億円です。売上高の減少に加え、カジマ・オーストラリアや持分法適用子会社である鹿島中国の一部工事にて損失を計上したことを要因に前年同期比△39億円減益となりました。



# 2019年度 通期 業績予想

1. 事業環境等の見通し
2. 業績ハイライト
3. 事業別の概況
4. 株主還元

Copyright © 2019 KAJIMA CORPORATION All Rights Reserved.

▶ 続きまして、2019年度 通期の業績予想をご説明いたします。

# 1.事業環境等の見通し

## 国内建設市場の動向

- 貿易摩擦の長期化等により設備投資の先行きに不透明感
- 土木工事や民間設備投資を中心に堅調を維持する見込み

## 今後の取り組み

- 技術力、提案力を軸とする営業活動の強化
- パイロット現場における生産性向上に向けた技術開発、現場実証
- 業容が拡大する海外関係会社の経営基盤整備

- まず、今後の事業環境の見通しをご説明いたします。
- 国内建設市場につきましては、  
貿易摩擦の長期化等により  
製造業の設備投資の先行きに不透明感があるものの、  
土木は公共投資や再生エネルギー関連、  
建築は機能高度化、省人化に向けた民間設備投資を中心に  
堅調を維持すると想定しております。
- このような見通しの中、技術力や提案力を軸とする営業活動を強化するとともに  
パイロット現場における生産性向上に向けた  
技術開発、現場実証に取り組んでまいります。
- また、業容が拡大する海外関係会社については、  
経営基盤整備を引き続き進めてまいります。



## 2.業績ハイライト

### 上期実績、今後の見通しを踏まえ業績予想を修正

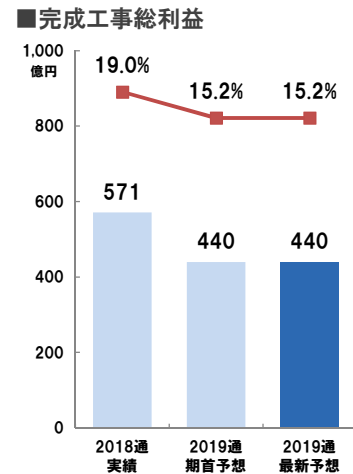
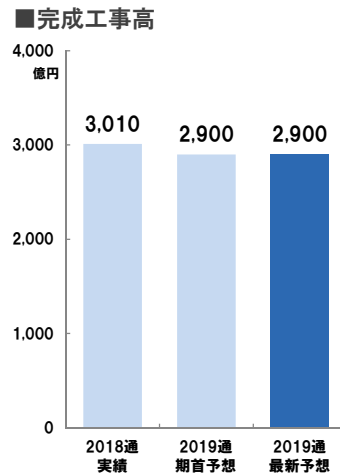
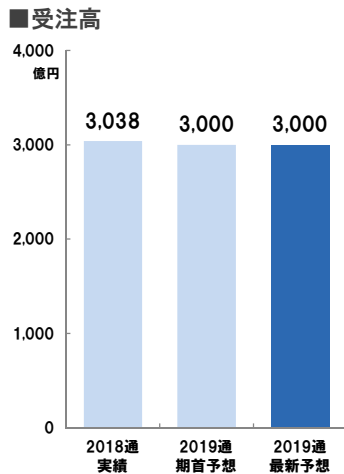
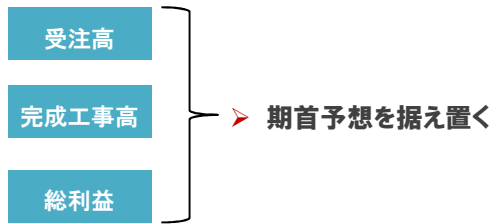
単位:億円	2018通 実績	2019通 期首予想	2019通 最新予想	前年度比	期首予想 比
売上高	19,742	20,400	20,000	+257	△400
営業利益	1,426	1,185	1,210	△216	+25
経常利益	1,629	1,270	1,300	△329	+30
※1 当期純利益	1,098	900	950	△148	+50
建設事業受注高	20,101	17,600	18,000	△2,101	+400
有利子負債残高	2,987	3,300	3,300	+313	±0

※1 親会社株主に帰属する当期純利益

Copyright © 2019 KAJIMA CORPORATION All Rights Reserved.

- ▶修正発表しました通期の業績予想です。
- ▶最新の業績予想は、  
売上高2兆円、営業利益1,210億円、経常利益1,300億円、  
当期純利益は950億円です。
- ▶売上高は海外関係会社の減少を主因に△400億円の減収を見込みます。  
利益につきましては、上期の実績と下期の見通しを踏まえて見直し、  
営業利益は+25億円、経常利益は+30億円、当期純利益は+50億円  
いずれも上方修正しております。
- ▶建設事業受注高は、期首予想を+400億円上回る  
1兆8,000億円を見込んでおります。  
海外関係会社の受注が期首予想を上回る見通しです。
- ▶有利子負債残高は、期首予想と同額の3,300億円を見込んでおります。

### 3.事業別の概況 ①土木事業(単体)



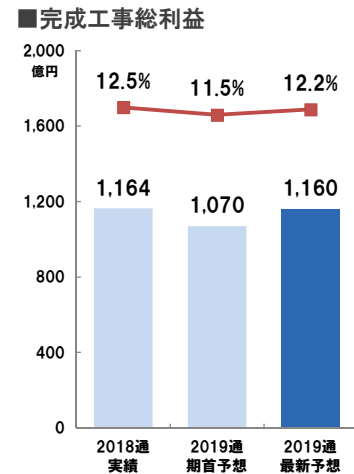
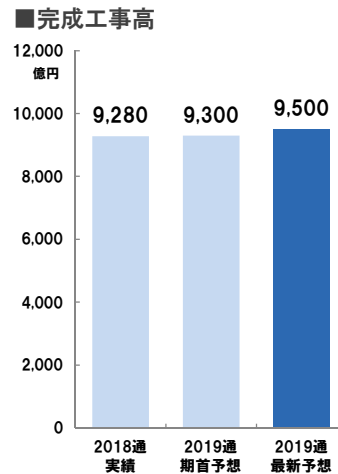
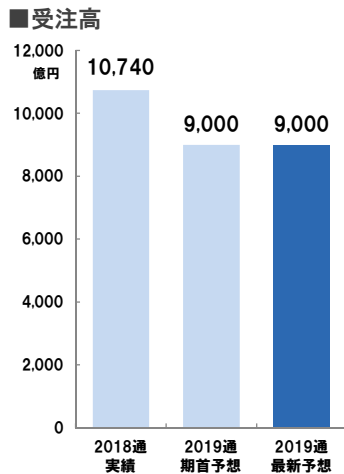
- 事業別の業績予想をご説明いたします。  
最初に、単体の土木事業です。
- 単体の土木事業につきましては  
受注高、完成工事高、完成工事総利益のいずれも  
期首予想を据え置いております。  
完成工事総利益率については、今後の工事の進捗とともに  
改善すると予想しております。

### 3.事業別の概況 ②建築事業(単体)

**受注高** ➤ 期首予想を据え置く

**完成工事高** ➤ 手持ち工事の順調な進捗を反映し上方修正

**総利益** ➤ 上期実績と手持ち工事等の状況を踏まえて上方修正  
➤ 前年度と同水準の利益確保を見込む



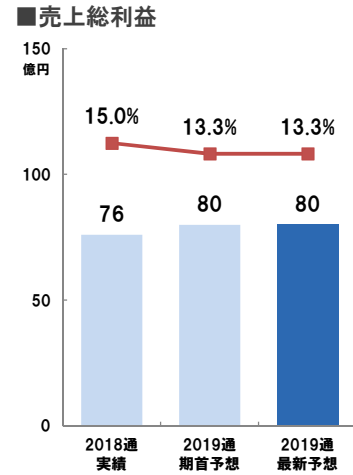
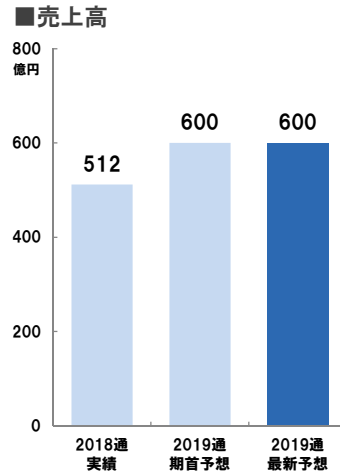
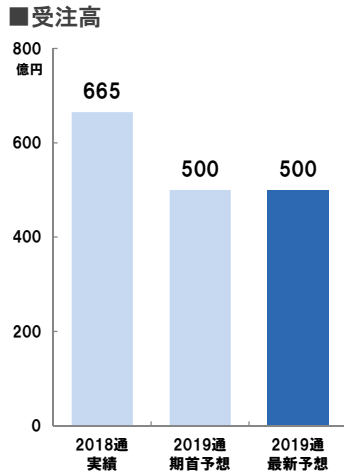
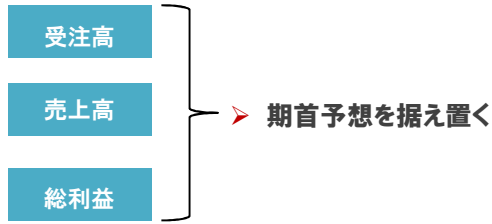
Copyright © 2019 KAJIMA CORPORATION All Rights Reserved.

➤単体の建築事業です。

➤受注高は期首予想同額の9,000億円、  
完成工事高は手持ち工事の順調な進捗を反映し  
+200億円増加の9,500億円を見込んでおります。

➤完成工事総利益は、上期の実績や手持ち工事の状況などを踏まえて  
+90億円増加を見込んでおります。  
総利益率は期首予想を+0.7ポイント上回る12.2%を見込んでおります。

### 3.事業別の概況 ③開発事業等(単体)



- 単体の開発事業等です。
- 開発事業等は順調に推移しており、受注高、売上高、売上総利益のいずれも期首予想を据え置いております。

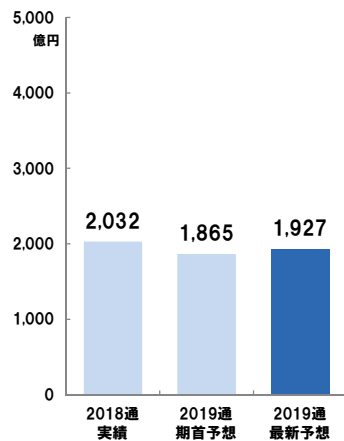
### 3.事業別の概況 ④国内関係会社

**受注高** ▶ 内装工事、道路工事が増加

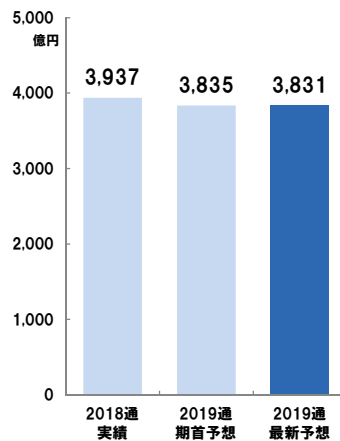
**売上高** ▶ 期首予想と同水準を見込む

**経常利益** ▶ 建設事業の売上高増加を主因に増加

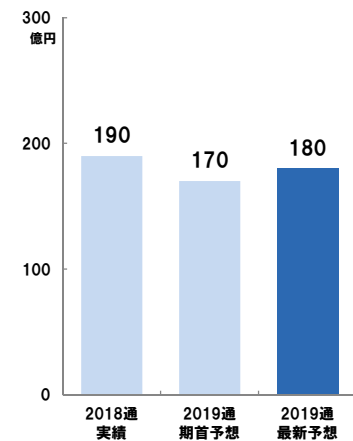
■建設事業受注高



■売上高



■経常利益



Copyright © 2019 KAJIMA CORPORATION All Rights Reserved.

- ▶ 国内関係会社です。
- ▶ 受注高は内装工事や道路工事が増加し、  
+62億円増加の1,927億円。  
売上高は期首予想と同水準を見込んでおります。
- ▶ 経常利益は、建設事業の売上高増加を主因に  
+10億円の増加を見込んでおります。

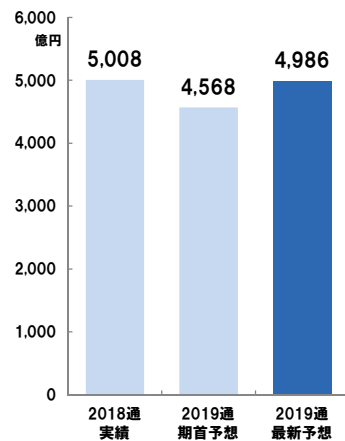
### 3.事業別の概況 ⑤海外関係会社

**受注高** ▶ KUSA(米国)や中鹿(台湾)が増加

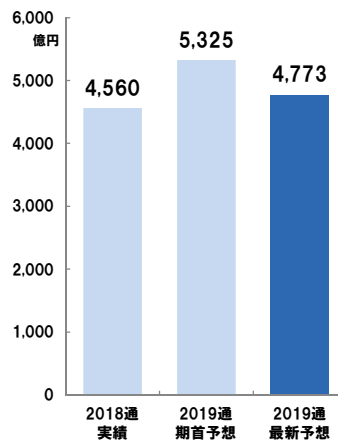
**売上高** ▶ 営業中案件の計画遅延を主因に減少

**経常利益** ▶ KA(豪州)等の工事損失により下方修正

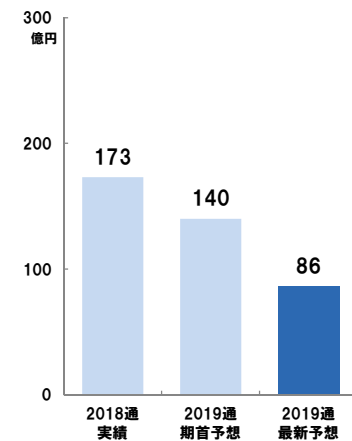
■ 建設事業受注高



■ 売上高



■ 経常利益



Copyright © 2019 KAJIMA CORPORATION All Rights Reserved.

▶ 海外関係会社です。

▶ 受注高は+417億円増加の4,986億円を見込んでおります。  
営業中案件の計画遅延によりKAP(アジア)が減少するものの  
KUSA(米国)や中鹿(台湾)が増加し、受注高を押し上げると予想します。

▶ 売上高は期首予想を△552億円下回る4,773億円を見込んでおります。  
KA(豪州)やKAP(アジア)における、  
営業中案件の計画遅延による着工の遅れが主な要因です。

▶ 経常利益は、上期実績を踏まえ  
期首予想を△54億円下回る、86億円に下方修正しました。

## 4.株主還元

### 配当金は期首予想を据え置く

	2017通 実績	2018通 実績	2019通 期首予想	2019通 最新予想
1株当たり 年間配当金	48.00円	50.00円	50.00円	50.00円
1株当たり 当期純利益	244.29円	211.67円	173.44円	184.94円
配当性向	19.6%	23.6%	28.8%	27.0%

当社は2018年10月1日付で普通株式2株につき1株の割合で株式併合を実施しており、2017年度及び2018年度に係る数値については、2017年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し算定しております。

#### <株主還元方針>

連結自己資本を確保しつつ、配当性向20～30%の範囲を目安に株主に対し安定的な配当に努めるとともに、業績、財務状況及び経営環境を勘案した株主還元を行うことを基本方針とする。

- ▶最後に、株主還元についてご説明いたします。
- ▶一株当たりの配当金は中間25円、期末予想25円とし、期首の予想を据え置いております。
- ▶なお、今年度は、株主還元の充実と資本効率の向上を図るため100億円の自己株式取得を実施いたしました。

100年をつくる会社



お問合せ先

鹿島建設株式会社 経営企画部  
コーポレート・コミュニケーショングループ

E-Mail : [ir@ml.kajima.com](mailto:ir@ml.kajima.com)

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報から得られた判断に基づいており、実際の業績は、様々な要素により記載の数値とは異なる結果となる可能性があります。